

学校名	浅口市立寄島小学校
授業者	今岡 旭 中塚 菜々子

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「寄島歴史探検隊 ～海とともに未来へ～」

1-2. 学年

6 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習

1-4. 単元の概要

まず第一次では、「寄島の歴史に親しむ」ことをねらう。導入時に第5学年時でも扱った寄島の魅力と課題を話題にして児童の発言を整理することで、昔からある古いものが思った以上に多くあることに気付くことができるようにする。そして、昨年度のよりしま学と関連させて、寄島の歴史について情報を発信していくことを念頭に置きながら学習を進めていく。ただし、情報を発信するためには、まだまだ知識が不足していることを確認し、もっと調べてみたいという思いを膨らませ、本単元の課題をつかむことができるようにする。このようにして単元の課題をつかんだ後、まずは共通体験として、文化財保護委員の方と共に寄島の主な史跡を見学して、寄島の歴史に親しむことができるようにする。その下準備として、「三郎島」「塩田」「古墳」等をテーマとし、インターネットで調べ学習をする。GIGAスクール構想により、今年度から配備された一人一台端末を活用して主体的に調べることで、質問を考えるなど、意欲的に見学に臨めるようにする。第一次の共通体験を十分に行うことが、寄島の歴史の概要を捉えて関心や「前向きさ」を高め、第二・三次の探究を支えたと考えた。

第二次では、「寄島の歴史を知る・調べる」ことをねらう。まずは、第一次での学びや気づきを基に、さらに調べたいことについて思いを膨らませる。そして、調べるテーマを決めて課題別グループを編成して探究する。課題別の調べ学習を進める中で、寄島の歴史とそれをつくってきた方々に対しての親しみや尊敬の念を抱かせたい。さらに、調べたことをまとめて発信するだけでなく、寄島の未来に生かしていきたいという思いを膨らませ、次の学習活動へとつなぐようにする。そのためにも、調べ学習の経過や、その過程で出てきた疑問や困り感を伝え合う機会を意図的に設けて共有することで、協力して課題を解決させたい。「友達のおかげで分かった。ありがとう。」「友達にアドバイスできた。うれしいな。」という思いは自己肯定感を高めるだろう。

第三次では、「寄島の歴史・未来への提言を発信する」ことをねらう。具体的には、海とのつながりを軸に調べたことと未来への提言を、コンピュータを使ってプレゼンテーションの資料を作成し、保護者や地域の方に発信する。発信した内容について意見をいただき、双方向で関わる場を複数回設ける。そうすることで、調べたことや考えたことを見直し、よりよいものへと深化させたい。「きちんと聞いてくれた。」「考えを伝え

られた。」という思いは自己肯定感を高めるだろう。

以上のように、「歴史」「海」という2つの視点を軸にした学習をすることで、過去から海と共に歩んできた寄島の歴史的な事象に親しみを持ち、地域への誇りをもつとともに、地域に住み形成する一員として、これからの寄島の町作りへ参画するための一歩となるようにしたいと考えた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

第6学年では、前学年までの海との直接的な関わりを基に、「歴史」という視点から海との関係を捉えることにより、海と寄島のつながりの深さについて考えることができるようにする。そして、地域への誇りと愛着を歴史的な価値の面からももつことができるようにし、これまでは関わりがないように感じていた事象も、実は故郷寄島が深く海とつながり共に歩んできたことに関係していると気付かせたい。さらに、寄島や自分たちの今後の在り方について見つめ直すことができるようにしたいと考えた。その際、歴史的な「もの」「こと」を実際に見学したり、地域の方の話を聞いたりする活動を大切に、寄島の歴史について実感をもって学ばせたい。それと関連付けながら、先人が思いを込めて作成して残した郷土資料を活用して探究していく。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・ 寄島の歴史について調べる中で、故郷寄島が海と深く関わりながら歩んできており、様々な歴史的な事象は、先人の苦労や努力、工夫によって支えられ受け継がれてきたことを理解することができる。

【探究活動を通して身につけた知識・技能】

- ・ 寄島の歴史について調べる中で得た情報を整理・分析し、工夫して表現するとともに、よりよい寄島を目指して未来への提言を考えて発信することができる。 【探究活動における思考・判断・表現】
- ・ 寄島の歴史と海とのつながりや、それらを基にした未来への提言について、進んで人と関わりながら調べたり考えたりすることができる。 【人と関わりながら学習活動に取り組む態度】

1-7. 単元の展開（全55時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「よりしま学」について知る。 ・ 寄島の魅力と課題を話し合う。 	行動観察
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家の人から聞いた寄島に残る古いもの、話、人について伝え合って、単元のめあてをつかむ。 ・ 課題を追究するための学習計画を立てる。 ・ 見学に向けて、クロームブックを用いて調べ学習をする。 <p>テーマ「三郎島」</p>	行動観察 ノート
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学に向けて、クロームブックを用いて調べ学習をする。 <p>テーマ「塩田」</p>	行動観察 ノート
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学に向けて、クロームブックを用いて調べ学 	行動観察

1 ~ 22	<p>習をする。 テーマ「福井古墳」「青佐の砲台」</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護委員の方（花房先生：後略）と共に三郎地区を見学する。 縄文時代の石器・寄島の地名の由来と神功皇后・大浦神社のもと・三ツ山の伝承・寄島の干拓の歴史等 見学の振り返りをする。 国土地理院のHPで、昔の寄島地区の写真を見る。 文化財保護委員の方と共に青佐の砲台跡を見学する。 城と武将・ペリー来航の影響・大砲の威力等 ※当日が悪天候だったため、今年度は花房先生に学校に来ていただき、青佐の砲台についての話をお聞きした。 文化財保護委員の方と共に、福井古墳を見学する。 昔の海岸線・海の恵みを受けた集落の発展・力のあるリーダーの登場等 寄島郷土資料館を見学する。 展示物を見ながら、担任の説明を聞く。 大浦神社見学に向けて事前学習を行う。 大浦神社作成の動画を視聴 大浦神社を見学する。 正式な参拝・舞の奉納・歴史・祭り・競馬神事・登録有形文化財 史跡を見学したことを振り返り、次の学習への見通しをもつ。 気付きや学びを入れたお礼の手紙を書く。 	<p>ノート</p> <p>行動観察 ノート</p> <p>【文化財保護委員】</p> <p>行動観察 ノート</p> <p>行動観察 ノート</p> <p>【文化財保護委員】</p> <p>行動観察 ノート</p> <p>【文化財保護委員】</p> <p>行動観察 ノート</p> <p>【寄島郷土資料館】 行動観察 ノート</p> <p>【大浦神社 宮司 禰宜 巫女】</p> <p>行動観察 ノート</p> <p>ノート 手紙</p>
--------------	--	--

<p>23 ~ 38</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに深く調べたいことを話し合う。 ・調べたいテーマを決める。 テーマ毎にグループを編成。 ・グループごとに調べる内容を具体的に決める。 誰が何を中心的に調べるか等 ・グループごとに、テーマに沿って情報を「収集→整理→分析」することを繰り返して調べる。 ・毎時間の最後には、調べ学習の経過と次時で行うこと、疑問点等を交流して生かす。 ・スクラップボックスのリンク機能を生かして、海とのつながりや歴史的事象同士のつながりを明らかにしながら、各グループの調べたことを交流する。 ・交流したことを基に調べ方を見直したり、工夫したりして、さらに情報の収集・整理・分析を行う。 ・調べたことの振り返りをする。 ・特に地域への誇りや未来に目を向けた発言を基に話し合ったり、学習計画を確認したりして、次時以降の学習への見通しをもつ。 	<p>行動観察 ノート</p> <p>行動観察 ノート</p> <p>行動観察 スクラップボックス</p> <p>行動観察 スクラップボックス</p> <p>行動観察 スクラップボックス</p> <p>行動観察 ノート</p>
<p>39 ~ 55</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画に照らして、第三次の学習の具体的な進め方を確かめる。 相手意識と目的意識をもつ。 コンピュータのプレゼンテーション機能を活用した発信をすることを確認する。 ・調べたことを基に発表内容の大まかなプロットを作成し、分担を決めたり再確認したりする。 ・発表原稿を作成し、その中からコンピュータで映し出すプレゼンテーションの記載内容を考える。 ・グループごとに、効果的な発表となるように、プレゼンテーションを共同編集しながら作成 	<p>行動観察 ノート</p> <p>発表原稿</p> <p>行動観察 プレゼン</p>

<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、作成の途中経過や疑問点等を交流して生かす。 ・互いに助言し合いながら、発表の練習をする。 <p>・学校運営協議会で地域の方に向けて発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表でいただいた意見や質問を基に、よりよいプレゼンテーションとなるように修正する。 ・参観日での発表に向けて準備や練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に向けて発信する。(参観日) <ul style="list-style-type: none"> ・単元全体の振り返りをする。 	<p>行動観察 【学校運営協議会】</p> <p>行動観察 プレゼン</p> <p>行動観察</p> <p>【保護者】 行動観察 ノート</p>
---	---

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

グループごとの調べ学習の中で、リンクを増やす活動を行い、他のグループの調べ学習のテーマとの共通点を考えることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 前時までに作成した他のグループの記述内容を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのグループとの共通点があるかないかを意識して読ませることで、リンクをはる活動に意識が向くようする。 ○本時は特に、「学びの姿」の、「前向きさ：協力」「素直さ：受け入れる」を發揮して学んでいくことを伝える。
リンクを増やして、他のグループとの共通点を考えよう。	
2 リンクのはり方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リンクのはり方を提示して確認する。また、テーマやキーワードがハッシュタグになることを担任が説明する。
3 グループごとにリンクを増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ○共同編集することで、リンクをはる場所やハッシュタグの付け方について、グループの友達と話し合う機会を作る。 ・他のグループとの共通点が少ないグループは「誇り」「よりしま学」等の大きなテーマでハッシュタグをつけるように助言する。
<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度、自分たちの書いた文章を読み直してみよう。 ・今まで気づいていなかったけど、実は○○グループとの共通点があった。 ・これ以上、共通点はないような気がする。 	

<p>4 他のグループ同士のリンクのはり方について、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作成者以外の視点で見ることにより、グループごとの共通点を発見しやすくする。 ・見つけた共通点について発表し合うことで、郷土の歴史のつながりの奥深さを感じられるようにする。
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<div data-bbox="651 353 1476 763" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・△△グループと◆◆グループには、両方とも「城」という言葉が出ている。 ・〇〇グループと□□グループが書いているのは、どちらも平安時代に関係している。 ・大浦神社と福井古墳と三郎島は、よりしま学の時間に、私たちが見学した場所だ。 ・「海」に関連しているグループが多い。 ・どれも寄島の誇りだ。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○友達の見意をもとに、リンクやハッシュタグを追加することで、スクラップボックス内のリンクを充実させ、他のグループとのつながりを感じられるようにする。 ・本時の学びを発表することにより、児童の言葉を基にまとめを行う。
	<div data-bbox="461 1126 1284 1207" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>寄島の歴史には、時代や場所など、様々なつながりがある。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○分かったことや考えたこととともに、「学びの姿」カードに照らして、自分の学びを振り返ることができるようにする。 ・クロームブックを使って振り返りを入力することで、書くことの抵抗感を減らし、次時の学習に課題意識をもって臨むことができるようにする。

スクラップボックスとは、Notaという会社が提供している、web上で情報を整理するためのサービス。情報（言葉）同士を「#」や「[]で囲む」ことによってリンクをはることができる。

3. 今回の活動の自己評価

- ・第一次の歴史探検や第二次の調べ学習を通して、寄島の歴史的な事象の多くは海とつながりがあるということを理解することができた。歴史探検で、実際に史跡を見学することは、非常によい学習になった。郷土の歴史の概要を捉えるとともに、かつて寄島に人が住み、海と共に暮らしてきたことを実感することができた。特に、三郎島の山の上からの眺めは、海側も陸側も故郷を感じさせてくれる穏やかな景色で、児童も感激していた。
- ・ストーリーシートを作成するにあたって、他教科とのつながりの重要性を改めて感じた。昨年度までの経験や他教科の学習と関連付けて考えさせることで、寄島の海の豊かさについて考えを深めることができた児童が多かった。特に、国語科の意見文の単元である「私たちにできること」では、寄島の未来をテーマとすることで、よりよい寄島の未来について考えるよいきっかけとなった。
- ・特に本時では、スクラップボックスのリンクをはることで、故郷の史跡や歴史的な事象について、それらには共通点や関連があることを実感することができた。前時までは、グループごとに自分たちの調べたいことを中心に調べている児童が多かったが、本時を境に故郷の歴史を俯瞰してとらえることが少しずつできるようになった。

4. 今後の課題

- ・三郎島の歴史探検の際に三ツ山付近まで行くことを想定していたが、時間がなかったため、今年度は海に行く機会を作ることができなかった。時間的なゆとりがあれば、他教科や創意の時間を活用して、海で遊び海に親しむ活動を入れてもよい。
- ・本時では、歴史的な事象のつながりについて、ウェビングの図を板書することで、つながりや共通点に対する認識が深まった。ウェビングはつながりや共通点を視覚的にとらえることができる手法だ。この活動を第二次の前半で行っておくと、つながりや共通点をさらに意識しながら調べ学習を進めることができた。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・文化財保護委員さんや学校運営協議会などとの連携をしっかりとりながら行う。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。